

高齢者・障害者の地域居住支援に向けた地域公共交通に関する調査研究

－高齢者・障害者のモビリティデータからみた評価の提案－

Study on regional public transportation toward housing assistance for persons with disabilities, the elderly community

－Proposal evaluation as seen from the mobility data of the elderly and persons with disabilities－

天野圭子 北川博巳

AMANO Keiko, KITAGAWA Hiroshi

キーワード：

障害者、食料品購入、医療受診、歩行能力

Keywords:

disabled people, grocery shopping, medical consultation, The ability of going out

Abstract:

The access from the place of residence to an institution expands, and a food dessert problem, the influence I suffer, and to give to maintenance of the health condition including the hate on medical institution are brought into question hate in thinking about the local residence support of an elderly person, the handicapped person when it is difficult to use a privately-owned car.

The aim of the present study is to investigate people with disabilities are living at home, focusing on the grocery shopping and medical consultation behavior. And I was analyzed for "Daily Activities" and "needs".

The overall result is the same as in the elderly. However, the impact of the need for auxiliary equipment and gait suggests the need for assistance and move seen by going out ability. Further, even in those who cannot go out at present, that there is a need for the mobile unit is revealed.

1 はじめに

我々を取り巻く社会環境の中で、自動車社会の進展はその利用者に豊かな移動環境をもたらした一方で、商業施設の郊外化や地域の中心部衰退に作用し、自ら自動車を運転することができない高齢者・障害者をはじめとする交通弱者にとっては居住地から施設までのアクセスのしづらさをもたらしている。近年では地域居住支援を考えるうえで、フードデザート問題、医療機関へのかかりにくさなど健康状態の維持に及ぼす影響も問題視されている。

そこで、本研究では在宅生活にある高齢者・障害者を対象に a) 食料品購入、b) 医療受診に着目し (1) 生活行動の現状把握、(2) 生活行動を享受する上でより充実を求めるサービスの2点について移動の観点から着目し調査を進めてきた。平成23年度は高齢者、平成24年度は障害者を対象として取り組んでおり、本報告では、平成24年度に実施した調査内容についてまとめる。

2 障害者の買物、通院アンケート調査

2.1 調査概要

調査地については平成23年度の高齢者向け調査と同様に本年度の障害者向け調査も兵庫県猪名川町をフィールドに実施した。猪名川町の地域的特徴として町の南部に民間開発による大規模な郊外型住宅団地が広がり、一方、北部は市街化調整区域に指定されている。町内の食料品店（スーパー、コンビニエンスストア）、医療機関も主に南部地域に集積しているが、食料品の宅配は町内全域で同程度のサービスを受けることが可能である。医療施設は町内に一般病院数2、一般診療数15、歯科診療数5で、一部の診療科目は町外の医療機関に依存している¹⁾（図1）。

調査概要について対象者は猪名川町在住で障害者手帳（身体・療育・精神）を所有する1,230人（全数）である。手法はアンケート形式により郵送配布・回収とし、実施時期は2013年2月、配布数1,230票、回収数857票、回収率69.7%であった。

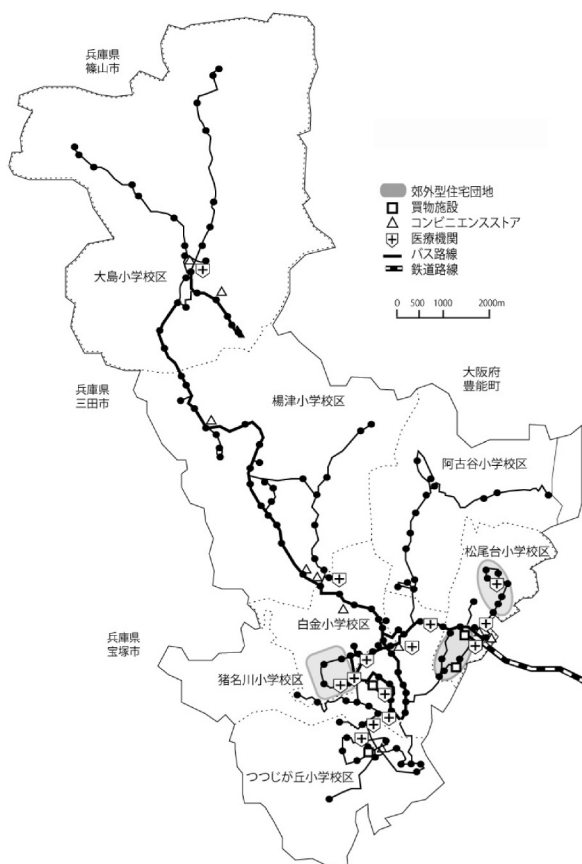


図1 調査対象地の概要

Fig.1 Overview of the land surveyed

表1 回答者の属性
Table1 Profile of Respondents

年齢	実数	割合	小学校区	実数	割合
10代	56	6.9%	松尾台小学校	214	26.5%
20代	30	3.7%	猪名川小学校	135	16.7%
30代	43	5.3%	大島小学校	105	13.0%
40代	36	4.5%	白金小学校	97	12.0%
50代	70	8.7%	つつじが丘小学校	90	11.2%
60-64歳	63	7.8%	楊津小学校	54	6.7%
65-69歳	92	11.4%	阿古谷小学校	36	4.5%
70-74歳	117	14.5%	無回答	76	9.4%
75-79歳	110	13.6%	合計	807	100%
80歳以上	184	22.8%			
無回答	6	0.7%	性別	実数	割合
合計	807	100%	男性	384	47.6%
			女性	405	50.2%
			無回答	18	2.2%
			合計	807	100%

表2 障害者手帳の種別と等級
Table2 Type of handicapped person's book and grade

(MA)					
身体	1級	166	療育	A	38
	2級	100		B1	12
	3級	135		B2	36
	4級	195		無回答	13
	5級	30	精神	1級	7
	6級	30		2級	22
	7級	1		3級	10
	無回答	10		無回答	0

表3 障害名または機能
Table3 Type of disability

(MA)		
	実数	割合
肢体不自由(上肢)	138	14.4%
肢体不自由(下肢)	341	35.7%
内部障害	148	15.5%
視覚障害	37	3.9%
聴覚障害	64	6.7%
知的障害	85	8.9%
精神障害	41	4.3%
その他	102	10.7%

表4 外出時の歩行能力
Table4 Walking ability of going out

	実数	割合
単独	自立歩行	504 62.1%
	歩行補助用具を使用	116 14.3%
	車椅子(自走)	16 2.0%
	白杖使用	4 0.5%
介助	自立歩行	54 6.7%
	歩行補助用具を使用	10 1.2%
	車椅子(介助)	68 8.4%
	外出はできない	19 2.3%
	その他	20 2.5%

※1「単独」とは外出が独りで可能(他人の介助は必要ない)

「介助」とは外出に歩行介助や見守りが必要

※2「歩行補助用具」とは歩行補助杖や歩行車等

なお、本調査は在宅生活を送る障害者を対象としているため、施設入居者、長期入院者は集計段階で除いている。

回答者の基本属性を表1、障害者手帳の種別と等級を表2、障害名または機能を表3に示す。手帳の種別からは身体障害の者が多いが、障害名または機能によれば肢体不自由（下肢）35.7%、内部障害15.5%、肢体不自由（上肢）14.4%と、多様な障害種別の者から回答を得ている。そこで、本研究では生活行動の現状・移動傾向を把握するために、調査分析の指標を手帳の種別および障害名には依らず、外出のしやすさを表すために以下の（1）大区分（2）細区分を元に「外出時の歩行能力」として独自の自立度を定めた（表4）。

（1）〈大区分〉外出時に人の手を借りる必要性

- i）外出が単独で可能〈他人の介助は必要ない〉
- ii）外出に介助〈他人による歩行介助や見守り（待機・指示・促し等）〉が必要
- iii）外出はできない

（2）〈細区分〉物（歩行補助用具、補装具）の助けの必要性

- i）自立歩行
- ii）歩行補助用具使用
- iii）車椅子使用
- iv）白杖使用

これに「その他」も併せて計8タイプとした。今回の回答者には歩行時に介助が必要な白杖利用者、介助犬、盲導犬を伴う者はみられなかった。

外出に大きな影響を及ぼす運転免許の保有状況は、「自動車免許」44.6%、「いずれも未取得」42.3%であった（表5）。外出時の歩行能力別にみると、「自動車免許」は外出が単独で可能な者では、自立歩行50.8%、歩行補助用具使用36.3%、車椅子使用（自走）23.5%と重度になるにつれて所持率は低下し、逆に「免許証返納済」の割合が増えている。介助が必要な場合は、「自動車免許」を歩行補助用具使用の54.5%が持っているのに対し、自立歩行、車椅子使用（介助）では、「いずれの免許も未取得」の割合が非常に多い（図2）。

3 食料品の購入

3.1 食料品の購入

本調査における食料品の定義は「生鮮を中心とした食材、加工食品（総菜、弁当等含む）」とした。回答者全体のうち「自ら食料品を購入する者」は52.8%であった。購入者として最も多いのは「同居

表5 運転免許の保有
Table5 Driver's license

(MA)		
	実数	割合
自動車	360	44.6%
自動二輪	52	6.4%
原付限定のみ	25	3.1%
免許証返納済	71	8.8%
いずれも未取得	341	42.3%

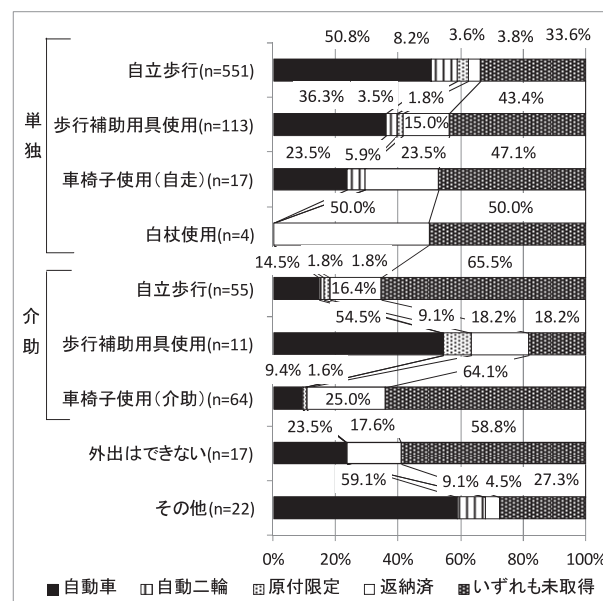


図2 運転免許の保有（歩行能力別）
Fig.2 Driver's license (Walking ability)

表6 食料品の購入者
Table6 Food buyers

(MA)		
	実数	割合
自分	354	52.8%
同居家族	448	66.8%
訪問介護員	15	2.2%
その他	34	5.1%

表7 食料品の購入方法
Table7 How to buy grocery

(MA)		
	実数	割合
食料品店に出かける	332	74.4%
宅配サービス	91	20.4%
移動販売	6	1.3%
その他	17	3.8%

家族」66.8%で、「訪問介護員」は2.2%に留まる（表6）。

次に、回答者自身で購入する場合の買物行動のうち購入方法・食料品店に外出する頻度・移動手段を外出時の歩行能力別にまとめる。

購入方法は、最も多いのが「食料品店に出かける」74.4%、「宅配サービス」は20.4%であり、「移動販売」は1.3%とほとんど見られない（表7）。しかしながら、

外出はできない者はn値は少ないながら100%が「宅配サービス」利用である。介助が必要な自立歩行の場合も33.3%が「宅配サービス」を利用している(図3)。

食料品店に外出する頻度は外出が単独で可能な者よりも、外出に介助が必要な者の方が全体的に「ほぼ毎日」が多くみられている。逆に、外出頻度が「週1日以下」の低いケースは、外出が単独で可能な者にあらわれており、特に自立度が重度になるにつれて、食料品店までの外出頻度は減少傾向にある(図4)。

食料品店に出かける際の移動手段は、「自分が運転」42.4%、「家族による運転」25.7%と自家用車の利用が多い。「タクシー」、「福祉移送サービス」の個別輸送の利用はほとんどみられない(表8)。単独での外出が可能な者で自立度が高い場合、「自分が運転」48.7%であるが、重度になるにつれて「家族による運転」が増えていく。また、車椅子使用者は自走・介助に関わらず、「家族による運転」が主である(図5)。

3.2 食料品購入時に充実を望むサービス

食料品購入時に充実を望むサービスについて、現状での食料品購入者のみに限らず回答者全員に尋ねると、「宅配サービスの充実」18.3%、「食料品店までの移動手段の充実」15.3%であった(表9)。

外出が単独で可能な者のうち自立歩行、歩行補助用具使用と外出に介助が必要な者の自立歩行、車椅子使用(介助)では、「移動手段の充実」と「宅配サービスの充実」の間にあまり差がみられない。外出能力別に、「宅配サービスの充実」が多いのは、外出が単独で可能な車椅子使用(自走)42.9%、外出はできない35.7%、「移動手段の充実」については介助が必要な者で歩行補助用具使用37.5%である。また、外出はできない者のうち14.3%は「移動手段の充実」を望んでいる(図6)。

4 医療受診

4.1 医療受診時のかかり方

医療受診のかかり方は、「医療機関に通院」94.1%、「医師による在宅受診」2.0%と現状では非常に多くの者が医療機関に通院をしている(表10)。通院手段は「家族による運転」41.5%、「自分が運転」26.7%と食料品購入と異なり「自分が運転」よりも、「家族による運転」が多い(表11)。外出時の歩行能力別では、外出が単独で可能な者のうち、自力歩行においては「自分が運転」と、「家族による運転」

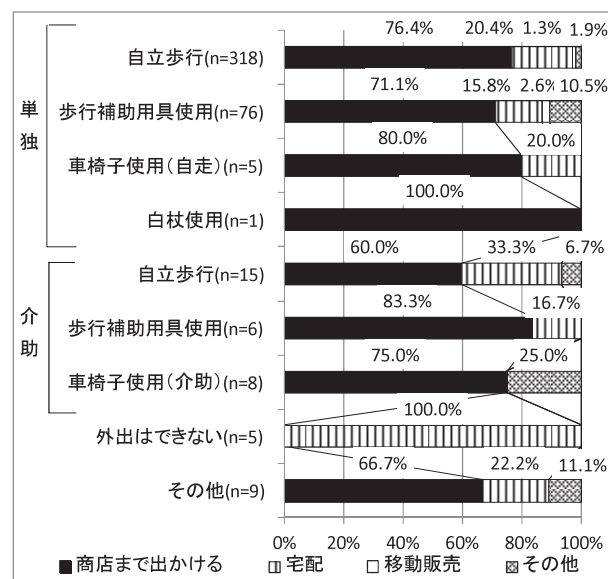


図3 食料品の購入方法(歩行能力別)
Fig.3 The purchase method of food (Walking ability)

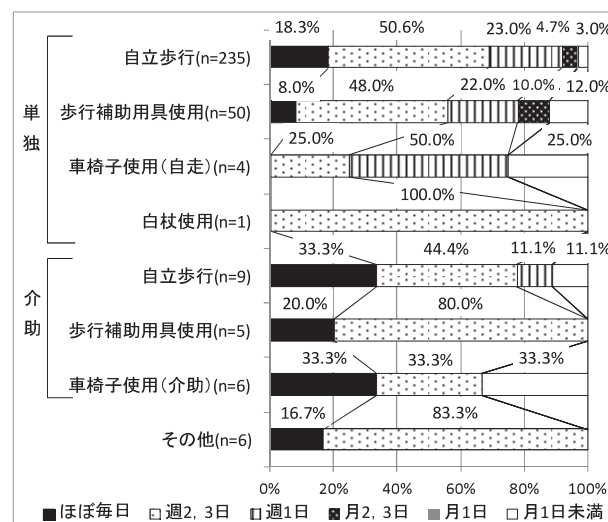


図4 食料品店に外出する頻度(歩行能力別)
Fig.4 Purchase frequency of grocery (Walking ability)

表8 食料品店までの移動手段
Table8 Transportation to grocery store

	実数	割合
車(自分が運転)	137	42.4%
車(家族が運転)	83	25.7%
車(知人が運転)	1	0.3%
バス	23	7.1%
タクシー	2	0.6%
バイク	4	1.2%
自転車	5	1.5%
福祉移送サービス	1	0.3%
徒歩	54	16.7%
その他	13	4.0%

が同程度であるが、自立度が下がるにつれて「家族による運転」の割合が増える。外出に介助が必要な者では、自立度に関係なく、多くが「家族による運転」である。また、食料品購入時にはみられなかった「タクシー」、「福祉移送サービス」利用もあり、外出はできない者では、「福祉移送サービス」33.3%、「タクシー」22.2%、歩行補助用具使用では単独・介助のいずれにおいても「タクシー」、「福祉移送サービス」が各1割前後の者に利用されている（図7）。

4.2 医療受診にかかる上で充実を望むサービス

医療受診にかかる上で充実を望むサービスは、全体では「通院手段の充実」28.6%、「在宅受診の充実」10.8%である。現状の医療受診では医療機関への通院が大半を占めている点からすれば、「通院手段の充実」を望む割合は低いことが伺えた（表12）。

また、外出が単独で可能な者はいずれの自立度においても「通院手段の充実」の方が「在宅受診の充実」よりも望まれており、特に重度になる程にこうした傾向が強い。しかし、外出に介助が必要な場合には自立歩行、車椅子使用（介助）では、「通院手段の充実」「医療受診の充実」が同程度で望まれている。また、歩行補助用具使用では「通院手段の充実」はわずか11.1%であり、「在宅受診の充実」を半数以上の55.6%が望んでいる（図8）。

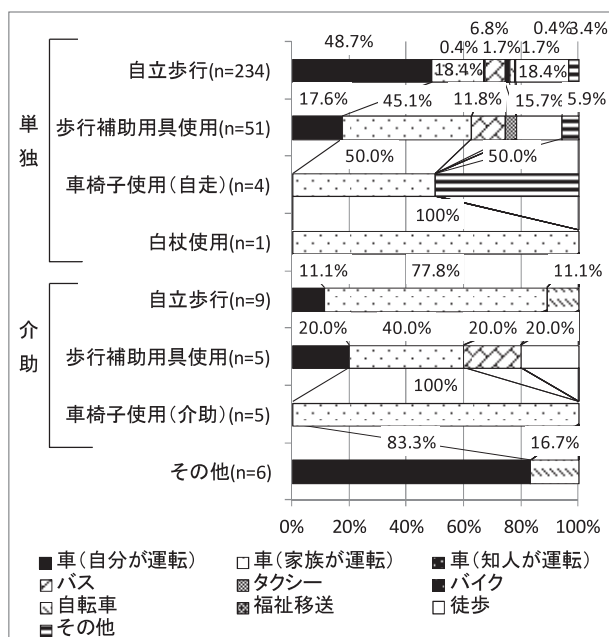


図5 食料品店までの移動手段（歩行能力別）

Fig.5 Means of transportation to the grocery shop (Walking ability)

表9 食料品購入方法として望むサービス
Table9 Required service for grocery shop

	実数	割合
商店までの移動手段の充実	123	15.3%
宅配サービスの充実	147	18.3%
移動販売の充実	43	5.4%
その他	187	23.3%
わからない	76	9.5%
無回答	226	28.2%

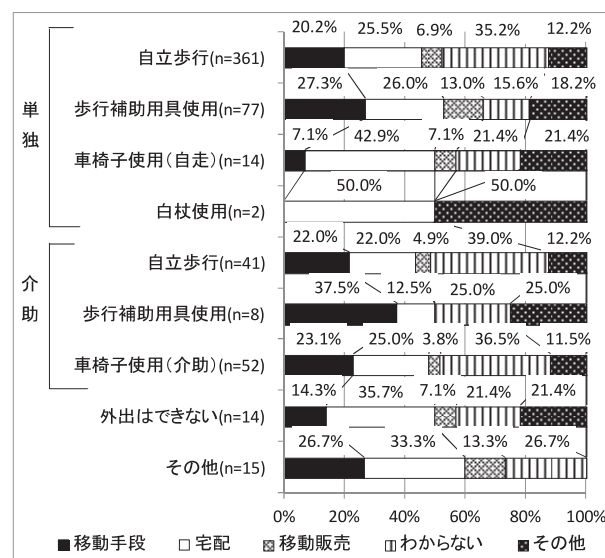


図6 食料品購入に望むサービス（歩行能力別）

Fig.6 Required service for grocery shop (Walking ability)

表10 医療受診時のかかり方
Table10 Medical consultation service

	実数	割合
医療機関に通院	759	94.1%
医師による在宅診療	16	2.0%
その他	8	1.0%
無回答	24	3.0%

表11 通院時の移動手段
Table11 Transportation to hospital

	実数	割合
車(自分が運転)	195	26.7%
車(家族が運転)	303	41.5%
車(知人が運転)	6	0.8%
バス	62	8.5%
タクシー	22	3.0%
バイク	8	1.1%
自転車	1	0.1%
福祉移送サービス	21	2.9%
徒歩	53	7.3%
その他	60	8.2%

5 まとめ

本研究で得た知見についてまとめる。

食料品の購入、医療受診ともに、現状の傾向および求めるサービスの全体的な動向は高齢者を対象とした調査と同様であった。²⁾ しかしながら、外出能力別にみた場合、以下の特徴が明らかとなった。

5.1 現状の生活行動について

外出が単独で可能な者は、自立度が高いほど食料品店に外出する頻度、食料品店および医療機関までの移動において自分が車を運転する率が高いが、自立度が低くなるにつれて、食料品店に外出する頻度は下がり、食料品店および医療機関までの移動手段も家族による運転が増える。

外出に介助が必要な者は、自立歩行と車椅子使用では動向が似ており食料品購入、医療機関への通院は家族による運転が多く、食料品購入は頻度も高い。しかしながら、歩行補助用具使用は異なり、食料品購入、医療機関への通院ともに、自立歩行、車椅子使用に比べて自分が運転する率が高いが、食料品店までの外出頻度が低い。

5.2 求めるサービスについて

食料品購入においては外出時に人の手を借りる必要性には依らず、物の助けの必要性が影響しており、歩行補助用具使用は「移動手段の充実」、車椅子使用では、「宅配サービスの充実」のニーズがある。医療受診については、外出時に介助が必要な場合、歩行補助用具使用では、「在宅受診の充実」を求めている。

一方で、食料品購入、医療受診ともに現状では外出は出来ない場合であっても、「移動手段の充実」を望む者もある。

謝 辞

本研究を遂行するにあたり、ご協力いただきました猪名川町の皆様、役場ご担当課の皆様にこの場を借りまして心より謝意を表します。

参考文献

- 1) 第五次猪名川町総合計画2020, 兵庫県猪名川町
- 2) 兵庫県立福祉のまちづくり研究所報告集 平成23年度, pp.91-94

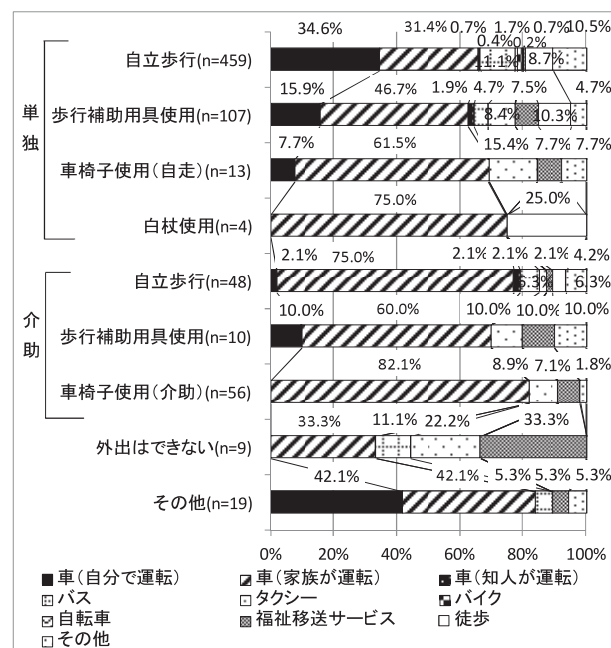


図7 通院時の移動手段（歩行能力別）
Fig.7 Means of transportation to the destination hospital (Walking ability)

表12 医療受診に望むサービス
Table12 Required service for Medical consultation

	実数	割合
通院手段の充実	228	28.6%
在宅受診の充実	86	10.8%
わからない	190	23.8%
その他	83	10.4%
無回答	210	26.3%

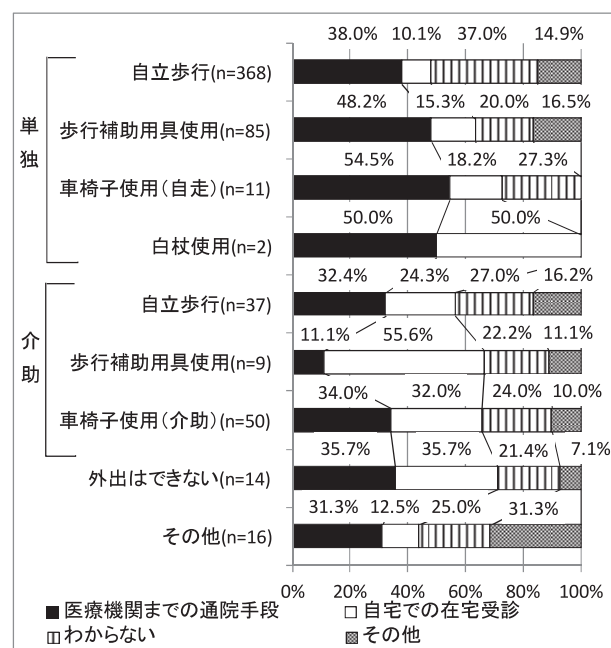


図8 医療受診に望むサービス（歩行能力別）
Fig.8 Required service for Medical consultation (Walking ability)